

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：35309

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00337

研究課題名（和文）『西行物語』諸本の本文の横断的研究

研究課題名（英文）A Cross-sectional Study of the Texts of the Various Texts of "The Tale of Saigyō

研究代表者

橋本 美香 (Hashimoto, Mika)

川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授

研究者番号：70462041

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、『西行物語』の各系統の諸本の本文について、これまでの実施している5本に加えて、パラレルコーパスを増補し、様々な本文をもつ『西行物語』の全貌はどのようなものを明らかにすることを目指したものである。

パラレルコーパスを10本のテキストについて作成することにより、同系統の諸本の異同について、多系統との比較を行いながら検証することができた。また、同系統での場面構成や内容の異同、描写（情報量）の程度の違い、記述スタイルの違いがあることが明らかになった。さらに『山家集』と『西行法師歌集』のコーパスを作成することにより、『西行物語』と実際の西行和歌ならびに詞書との比較検討が可能となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の実施により、日本文学と日本語学のジャンルからの分析が可能になる。また、テキストの本文に忠実なコーパスの作成を行うことにより、『西行物語』の諸本について、データ化を行い、語レベルまで分析ができる本文の比較検討ができる。また、西行の私家集である『山家集』『西行法師歌集』のコーパスの作成により、『西行物語』に収録されている和歌についても、実際の西行詠と語レベルまで比較検討することができる。これらの調査により、『西行物語』の伝本の系統の特徴、相関関係などについて分析が可能になり、『西行物語』の全貌に迫ることが可能となる。

研究成果の概要（英文）：In this research, as part of our ongoing literary and linguistic research, we have augmented the previously developed parallel corpus by adding 5 more variants of "Saigyō Monogatari" in order to carry out text correction and interpretation and, in turn, to get a better picture of the entirety of the work.

Using this parallel corpus based on the texts of the 10 variants from "Saigyō Monogatari," we were able to examine the differences between various books of the same lineage by comparing them with multiple lineages of "Saigyō Monogatari." As a result, while clarifying the quantitative features of the vocabulary in "Saigyō Monogatari," we were able to know the difference in scene composition and content, the difference in the degree of depiction (information content), and the difference in the description style. Furthermore, with this research, it has become possible to compare Saigyō's waka (poems) and their introductory comments with "Saigyō Monogatari."

研究分野：人文学

キーワード：中世文学 コーパス テキストデータ化 西行物語 西行和歌 伝本の比

## 1. 研究開始当初の背景

急速なデジタル化の時代において、古典籍もデジタル化が進んでいる。国立国会図書館、国文学資料館などにおいて、テキストを web 上で見ることが可能となっている。しかし、研究を行うには、翻刻作業が必要であり、膨大なテキストを確認するには翻刻だけで労力が割かれ、解読・解釈を行い、新たな知見を得るまでに、膨大な時間を要する。今後、OCR による古典籍翻刻が行われるようになってくることも予想され、翻刻作業の省力化の方向に進むことは推測できる。(山本純子、大澤留次郎(2016) 古典籍翻刻の省力化くずし字を含む新方式 OCR 技術の開発、情報管理, 58(11)) それでもなお、テキストを分析するには、解読・解釈の作業が残される。国語学の見地から、国立国語研究所では、古典籍に関する「日本語歴史コーパス」が開発されている。しかし、『西行物語』などすべての古典籍を網羅するには至っていないという課題がある。このコーパスでは、すべての読みや品詞などの形態論情報が付与されており、総索引としての活用だけではなく、より高度な検索や集計が可能となっている。しかし、本文校訂後の本文だけであり、諸本の比較検討はできない。

そのため、これまでに国文学と国語学の見地からの共同研究により『西行物語』の諸系統本のうち、系統が異なると考えられる 5 本のテキストの本文の電子化を実施し、パラレルコーパスの構築を行った上で、国文学の見地から諸本の本文異同に関する研究、国語学の見地から語彙についての分析を行った。その結果、登場する和歌が諸本によって異なっており、歌の改訂、改変もなされていることが、明らかになった。また、語彙量も、それぞれの諸本によって異なっており、特徴がみられることが明らかになった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、『西行物語』諸本のテキストのパラレルコーパス構築より、国文学・国語学の分野から横断的に『西行物語』を研究することである。

研究課題は以下の 3 点である。

- (1) 『西行物語』の諸本について、各系統の本文の異同は、どのようなものか
- (2) 『西行物語』の諸本は、本文の特徴はどのようなものか
- (3) 様々な本文をもつ『西行物語』の全貌はどのようなものか

『西行物語』には諸本を俯瞰する上で、テキストのデータ化、パラレルコーパスの作成は、必要不可欠なものであると考える。『西行物語』のパラレルコーパス作成により、それぞれのテキストの文体、表現などの特徴が明らかになることが期待される。すでに研究組織内で研究を実施しており、略本系、采女本系、寛永・永正本系の 3 本の本文について、同じ場面の分析を行ったところ、同じ内容であるが、文の分量、主語の出現、頻度の高い表現などに差異があることが明らかになっている(引用文献)。この研究をさらに波及させ、さまざまな『西行物語』のテキストで分析を進め全貌を明らかにしたい。

また、これまでの研究で西行和歌とされている『西行物語』の歌を分析したところ、西行以外の歌を西行歌として取り扱う、あるいは、西行の同時代には使われていない表現が使用されている、また西行歌を改変、改定していることも明らかになった(引用文献)。西行和歌によって構成されると言われる『西行物語』の和歌を分析することにより、物語の書き手あるいは写し手の意図も解析できるのではないかと考える。

## 3. 研究の方法

これまでに、西行物語について、略本系「島原図書館松平文庫蔵本」、広本系「書陵部文明本」、采女本系「今治市河野美術館蔵本」、寛永・永正本系「岩国徴古館蔵本」、松平本系「島原図書館松平文庫蔵本」の 5 本について形態素解析を行い、パラレルコーパス化を進めている。特にこの中で、略本系「島原図書館松平文庫蔵本」、采女本系「今治市河野美術館蔵本」、寛永・永正本系「岩国徴古館蔵本」3 本について予備調査を行ったところ、同一場面での語彙の使い方、語彙量などに違いがあることが明らかになった。しかし、これまでに調査を行っている 5 本だけでは、『西行物語』の全貌を明らかにすることはできない。そのため、本研究ではさらに研究を進めていくため、以下の点について実施する。

- (1) 『西行物語』諸本のテキストのコーパス化
- (2) 『西行物語』の章段の一覧性の確保
- (3) 西行和歌のコーパス化

これらを行った上で、『西行物語』に関する諸本の本文に関する調査、また、西行和歌に関する調査を、国文学・国語学の見地から質的、量的に多面的に分析し、『西行物語』の全貌に迫ることを目指す。さらに、国語学・国文学の見地からの多面的な分析の重要性について、提言したい。

## 4. 研究成果

- (1) パラレルコーパスの構築

以下に示した通り、『西行物語』と西行歌集のコーパスを作成した。以下に、分類とともにそ

の一覧を示した。なお、『西行物語』については、下記の本文の項目について表を作成し、現在、調査が完了している伝本についての項目の異同について、一覧性を持たせることができた。この表を活用し(2)の各系統の伝本の比較並びに(3)の同一系統内の伝本の比較が可能となった。

種別	大分類	小分類	テキスト名
西行物語	甲類	略本系	サントリー美術館蔵本 「西行物語絵巻・詞書」旧久保家蔵本・白描本とも
			島原図書館松平文庫蔵本 「西行聖人物語」
			静嘉堂文庫蔵本 「西行物語(伝阿仏尼本)」
	乙類	広本系	書陵部蔵本 「統群書類従本」
			徳川黎明会蔵本 「西行物語絵巻・詞書」
			萬野家蔵本 蜂須賀家・大原家旧蔵本とも
		采女本系	センチュリー文化財団蔵本 「西行法師行状絵巻」
			篠山市青山歴史村蔵本 「西行之絵草紙詞書」
			今治市河野美術館蔵本 「西行四季物語」
		永正・寛永本系	岩国徴古館蔵本 「西きようき」
その他	島原図書館松平文庫蔵本 「西行発心物語」		
歌集	西行私家集	『山家集』(陽明文庫本) 『西行法師家集』(李花亭文庫本)	

## (2) 各系統の伝本の比較

### 『西行物語』の選歌意識(引用文献)

本研究で作成したコーパスに基づき、乙類の伝本について吉野に関する章段を中心に比較検討を行った。その結果、吉野の章段について、伝本によって吉野を訪れる目的について、あくまでも修行と捉える伝本と(采女本系、松平本系)と、桜の花を觀賞するためとする伝本(広本系、永正・寛永本系)に分かれることが明らかになった。吉野の章段に登場する桜の歌についても、それぞれの系統で異なっていることが明らかになった。5つの系統について、それぞれ独自に採録している歌が見られることが判明した。これまで『西行物語』に採録されている西行和歌は、勅撰集では『新古今和歌集』が中心であると考えられていたが、独自に採録している歌については、『新古今和歌集』に採られていない歌、勅撰集に採られていない歌であることも判明した。

また、『西行物語』の桜は、吉野と伊勢が比較されており、伊勢での桜の歌の重要性も示すことができた。

### 『西行物語コーパス』から見る語彙の量的構造(引用文献)

本研究で作成したコーパスにより、語彙の量的な構造を調査した。資料規模とTTR(異なり語数/述べ語数を確認し、松平本はTTRが低く描写疎密について注意が必要であることが明らかになった。次に語種比率を比較し、内容の異同があり、場面構成や描写(情報量)の程度の違いがあるにも関わらず、一定していた。また、文体の指標として用いられる品詞比率により、「要約的」な文章としての特徴が明らかになった。また、島原本は「ありさま描写的」であり、宝永本は「動き描写的」であることをはじめとして、テキストによって、描写の方向性が異なることが検証できた。また、略本系と松平本系、永正・宝永本系と采女本系が、それぞれ共通度が低いことが明らかになった。

### 「西行物語」の語彙(引用文献)

「西行物語」5系統8種類の諸本を対象とした『西行物語コーパス』に基づき、語彙量とTTR、語種比率、品詞比率(名詞率とMVR)、高頻度語、共通度の5観点から、「西行物語」諸本の比較、『日本語歴史コーパス 鎌倉時代編』所収の同時代資料との比較を行った。その結果、采女本系3本の類似が数値として明らかになった。また、同時代資料を比較すると、「西行物語」諸本は類似したテキスト群であることが明らかになった。

## (3) 同一系統内の伝本の比較

### 采女本系の伝本における本文の特徴(引用文献)

コーパスを作成しているセンチュリーミュージアム蔵本、篠山市青山歴史村蔵本、今治市河野美術館蔵本の他に、ウィーン国立民族学博物館蔵本、渡辺家蔵本を加えた采女本系の5本のテキストについて、比較を行った。その結果、多系統に見られない11の項目があり、西行和歌と類似性がみられるもの、西行和歌を増補しているもの、出典未詳のものが存在することが明らかになった。

また、采女本系は異同が多く、特に渡辺家蔵本は錯簡が多いと言われているが、独自の項目については、有機的な結びつきがあることが明らかになった。また、センチュリーミュージアム蔵本、篠山市青山歴史村蔵本、ウィーン国立民族学博物館蔵本は、詞章と和歌について、ほぼ一致しているが、同系統の伝本であるにも関わらず、渡辺家蔵本、今治市河野美術館蔵本には、項目の異同があることが明らかになった。

略本系の伝本の本文の特徴（参考文献）

コーパスを作成したサントリー美術館蔵本、島原図書館松平文庫蔵本、静嘉堂文庫蔵本の3本に加え、正保三年本の項目の比較を行った。略本系は名称の通り、広本系の本文を省略した形であるとされていた。しかし、略本系の伝本について、広本系の伝本である文明本と比較すると、追悼の意を表すものが3件、また弘法大師との関連性を示すものが1件、娘の出家後の経緯に関するものが1件、独自の内容となっている。このことから、略本系の詞章にも、独自の特徴がみられることが明らかになった。略本系の伝本について、広本系や采女本系のようなダイナミックな異同は見られない。一方で、略本系の伝本は、他系統である広本系の中でも田中本、彰考館本との直接的な関係が推測できること、さらに采女本系の項目との重層性から、采女本系との関係性も推測できた。

これまでの『西行物語』の諸本の項目に関する集積として、略本系の独自性を示すため、広本系、采女本系、永正・寛永本系と比較した表を示す。

地域		広本系			略本系				采女本系				永正・寛永本系	
		文明本	田中本	彰考館本	静嘉堂本	正保三年本	本サントリー	島原松平文庫蔵本	宮内庁本	リイセンチュウ本	ウイーン本	渡辺家本		美術館本
駿河	駿河国岡部宿で、死んだ同行の笠を見る	48	48	22	24	24	24							41
京	知人の死、その妻の泣き歎くを訪ねる	67	67		41	41	41							
京	七月十五日夜、人々火を灯す				45	45	45							
讃岐	善通寺に庵を結ぶ		96	96			58	58	38	38	44	18	37	66
紀伊	娘、高野の天野に着き、母と再会					64	64	64	50	51	61	59		

は、コーパス作成テキストをであることを示す。

静嘉堂文庫本は、24項目、正保三年本、サントリー美術館本、島原図書館松平文庫蔵本は69項目。

項目の見出しならびに並びに表の発案は、共同研究者である山口眞琴氏による。

略本系の伝本の語彙調査（参考文献）

サントリー美術館蔵本、島原図書館松平文庫蔵本、静嘉堂文庫蔵本について、内容が共通している冒頭の西行の経歴・出家の志を描いた部分から新春、西方浄土を願う部分までを取り出し、語彙調査を行った。

この結果、資料規模はほぼ同等であること、品詞構成比率については、島原本とサントリー美術館本は非常に近い構成であるのに対して、資料規模の小さい伝阿仏尼本は名詞率が高くなっており「要約的」な文章であると推定できた。今回の調査範囲については品詞を問わず語彙が共通している様子が確認できた。しかし、原本とサントリー美術館本とは非常に共通度が高い本文を持つが、係り結びや待遇表現のあり方に差異があることが明らかになった。

(4)西行物語の全貌の考察

『西行物語』の全貌を検討するにあたり、これまで調査を行った伝本について、項目の一覧表を作成した。さらに(2)の調査結果により、同一系統の伝本についてもそれぞれ特徴があり、系統を代表する伝本だけでは、全貌が解明できないことが明らかになった。以下に、項目の一覧表の一部を抜粋したものを示す。また、『西行物語』は、西行和歌を採録しているが、西行和歌の改訂、増補、仮託などがみられるため、西行和歌と詞書と『西行物語』本文について、比較検討し、『西行物語』の特徴を明らかにする必要がある。今回の研究で、『山家集』『西行法師家集』のコーパスも作成することができた。そのため、『西行物語』と西行和歌のコーパスを活用し、比較検討する素地ができた。

これまでに、系統を横断的に伝本の調査を行った。しかし10数本の伝本調査だけでは、全貌が解明できないことが明らかになった。そのため、今後も『西行物語』の伝本のテキストデータ化、コーパス化を継続し、さらに大きな視点でとらえる必要がある。また、テキストデータを活用し、デジタル版の『西行物語』校本を作成することにより、『西行物語』の研究の進展が期待できると考える。

<引用文献>

富士池優美、鴻野知暁、「『西行物語』の語彙 コーパスを用いた予備的分析」、西行学、9号、西行学9号、83-92、2018

橋本美香（2018）「『西行物語』における和歌の多様性 岩国徴古館蔵本『西行絵詞』を中心に」、西行学9号、32-46、2018

橋本美香、『西行物語』の和歌選択意識 吉野の桜をめぐる、西行学、12号、62-73、2021

- 富士池優美、『西行物語コーパス』から見る語彙の量的構造、西行学、12号、119-127、2021
- 富士池優美、「西行物語」の語彙 - 『西行物語コーパス』を活用して、玉川大学文学部紀要、63号、81 - 93、2023
- 橋本美香、『西行物語絵巻』采女本の特徴 独自の章段を中心として、西行学 14号、2-21、2023
- 富士池優美、橋本美香、蔡佩青、語彙から見る「西行物語」伝本の特徴 略本系を中心に、淡江大学日本語文学科 2023年日本文学知国際シンポジウム予稿集、51-60、2023

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 橋本 美香	4. 巻 14
2. 論文標題 『西行物語絵巻』采女本の特徴 独自の章段を中心として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西行学	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本 美香	4. 巻 12
2. 論文標題 『西行物語』の選歌意識 吉野の桜をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西行学	6. 最初と最後の頁 62-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口 眞琴	4. 巻 12
2. 論文標題 西行「吉野の興」再考 歌語としての成立をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西行学	6. 最初と最後の頁 73-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富士池 優美	4. 巻 12
2. 論文標題 『西行物語コーパス』から見る語彙の量的構造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西行学	6. 最初と最後の頁 119-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蔡佩青	4. 巻 12
2. 論文標題 近世における「西行物語」の継承と展開 二種の『西行法師一代記』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西行学	6. 最初と最後の頁 128-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口 眞琴	4. 巻 38
2. 論文標題 内蔵される 武 西行の境界的存在性について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語表現研究	6. 最初と最後の頁 17-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富士池 優美	4. 巻 63
2. 論文標題 「西行物語」の語彙 - 『西行物語コーパス』を活用して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 玉川大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 81-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15045/00001781	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本 美香	4. 巻 14
2. 論文標題 『西行物語絵巻』采女本の特徴 独自の章段を中心として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西行学	6. 最初と最後の頁 2-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 富士池優美、橋本美香、蔡佩青
2. 発表標題 語彙から見る「西行物語」伝本の特徴 略本系を中心に
3. 学会等名 淡江大学日本語文科学科2023年日本文知国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 橋本美香
2. 発表標題 『西行物語絵巻』采女本の特徴 独自の章段を中心として
3. 学会等名 西行学会2022年大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋本美香
2. 発表標題 『西行物語』の和歌選択意識 吉野の桜をめぐって
3. 学会等名 西行生誕900年記念国際研究集会（西行学会2019年タリン大会）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富士池優美
2. 発表標題 『西行物語』コーパスについて
3. 学会等名 西行生誕900年記念国際研究集会（西行学会2019年タリン大会）（国際学会）
4. 発表年 2019年



〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山口 眞琴 (YAMAGUCHI Makoto)  (10158115)	兵庫教育大学・学校教育研究科・教授  (14503)	
研究分担者	富士池 優美 (FUJIIKE Yumi)  (20510572)	玉川大学・文学部・教授  (32639)	
研究分担者	鴻野 知暁 (KONO Tomoaki)  (30751515)	大阪大学・大学院人文学研究科(外国学専攻、日本学専攻)・講師  (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------